

第6学年 道徳科学習指導案

指導者：T1 教諭 佐藤 史子
T2 教諭 日下 美緒

1 主題名 よりよい校風 C-（16）よりよい学校生活、集団生活の充実

2 主題について

（1）ねらいとする価値について

本主題は、小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編によると、C「主として集団や社会との関わりに関すること」の「先生や学校の人々を敬愛し、みんなで協力し合ってよりよい学級や学校をつくるとともに、様々な集団の中での自分の役割を自覚して集団生活の充実に努めること」と関連が深い内容である。

児童は、学校での諸活動を通じて協力するよさと意義を知ることが多い。充実感や満足感もその中で味わっていく。その上で自分の学校のよさを感じ、学校の一員としての自分の役割を自覚するようになっていく。学校には、多くの先輩が培い、代々受け継ぎ育ててきた伝統がある。最上級生としての児童が、大鷹沢小学校の伝統を受け継ぎ、さらによりよいものにしていこうと考えることが大切であると考え、本主題を設定した。

（2）児童について

本学級は、男子8名、女子7名、計15名の学級である。子どもたちは日々、高学年としていろいろな場面で高学年としての役割を果たしたり、時には悩んだりしながら学校生活を送っている。これまでの先輩たちから学んだ、元気にあいさつをすることや、下級生のお世話をすることなどを進んで行うことが、本学級の児童のよさだと考える。

本時の授業にあたって、関連する意識調査の結果は以下の通りである。

（7月13日実施 男8名 女6名 計14名 未実施1名 質問紙法）

A（だいたい身に付いている） B（どちらかといえば身に付いている） C（あまり身に付いていない） D（不足しているので今後身に付けたい）	A	B	C	D
気持ちのよいあいさつをしたり、言葉遣いや行動に気を付けたりしている。	8人	3人	3人	0人
友達となかよくし、お互いに助け合う。	12人	2人	0人	0人
日頃お世話になっている人に感謝の気持ちを持ち、それに応えようとする。	9人	2人	3人	0人

ほとんどの児童が、肯定的に回答しており、明るく穏やかに生活していることが分かる。「友達となかよくし、お互いに助け合う」の項目で、ほとんどの児童が高い評価をしている。これは、15名という人数の中で互いの長所や短所をよく理解し、協力して物事に取り組むことが身に付いているからだと考え。普段の生活の中でも学習中はもとより、係の仕事や委員会活動等で助け合って活動している様子が見受けられる。

一方、「気持ちのよいあいさつをしたり、言葉遣いや行動に気を付けている」「日頃お世話になっている人に感謝の気持ちを持ち、それに応えようとする」の項目で、「あまり身に付いていない」と回答している児童が3名ずついる。これは、そのことの大切さは分かっているが、なか

なか自分からあいさつができなかったり、行動に表せなかったりすることが一因となっていると考えられる。普段の生活の様子を見ると、恥ずかしさからあいさつの声が小さくなってしまったり、言葉遣いが時として乱暴になってしまったりすることが見受けられる。また、自分の周りの人々へ感謝する心はもっていても、どのように行動に表わせればいいのか迷っている様子なども見られる。

業前の「対話タイム」などでは、社会的な話題に興味・関心をもち、児童から問いを見つけてくることが多く、積極的にニュースを見たり、新聞の記事を取り入れたりする様子が見られる。当初は話題に興味がなかった児童も、次の「対話タイム」の時にはニュースを集めて対話に参加する様子が多く見られている。また、友達の話聞いてその話題について自分なりに調べてくる様子も見られるようになってきている。

(3) 教材について

①教材名 「せんぱいの心を受けついで」 出典：「新しい道徳6」 東京書籍

②価値 C-（16） よりよい学校生活，集団生活の充実

③教材について

広美は栽培委員会に入ったが、希望した委員会ではなく、いやな肥料いじりもあるので気が進まない。しかし、「二人二はち運動」で1年生の健一と一緒に作業する中で、きれいな花を咲かせようという気持ちに変わっていく。さらに広美は、20年前の作文集の中の「キクづくりによって学校中の人たちの心が一つになった」「学校のよい伝統を後輩に引き継ぎたい」という米屋のおじさんの作文に心をひかれる。広美の行動から、よりよい学校づくりを目指し自分たちができることを考え、学校を支えるのは自分たちであるという自覚を高めることのできる教材だと言える。

④教材分析 （別紙）

(4) 指導にあたって

最上級生としての役割を自覚し、その責任の重さを理解することはとても大切なことである。最上級生として様々な活動を通して、自分たちの学校である大鷹沢小学校を大切に思い、仲間と力を合わせて、積極的によりよい学校をつくっていかうとする態度を育てていきたい。

展開後半部分で本校の卒業生数名に、母校についての具体的な思い出や、卒業後そして今の母校への思いをメッセージとして手紙に書いてもらい、教師が紹介する。そのことにより、児童のよりよい学校をつくっていかうとする気持ちを強めたい。また、T2が自分の経験を基にした問い返しを行うことによって、伝統を受け継ぐことの必要性についての考えを深めさせたい。

卒業まで半年を切り、5年生への様々な引継ぎの活動へと向かう前に、改めて自分の学校のよさやこれからの自分たちの過ごし方を考えさせることによって、より一層、最高学年としての責任や自覚、仲間意識を高めることができると考える。

(5) 研究の視点

【視点1】道徳的諸価値の理解を基に、自己を見つめ、考えを深める授業スタイルの工夫

①自他との対話を促す支援の工夫

a 事前アンケート

- ・事前に「大鷹沢小学校のよき伝統とは何か」というアンケート調査を実施し、導入で結果を提示することによって、児童が自分自身の学校生活と教材を関連付けて考えられるようにする。また、展開後半で自分のこととして考える場面での手掛かりとしても提示する。

b 事前読み

- ・教材を事前に読ませ、授業で話し合いたい課題を考えさせることによって、児童が課題意識をもって主体的に対話を進めることができるようにする。

c 対話中のツールキットの活用

- ・対話中にツールキットを活用することによって、自分の立場を明確にしたり考えを広げたりすることができるようにする。

②「あすなろノート」の活用

授業の最後に対話を振り返り、次の順序で「あすなろノート」に書かせる。

- 1) 対話の中で心に残った友達の意見や考えが変わったことを書かせることによって、自分の考えと比較したり、物事を多面的・多角的に考えたりすることができるようにする。
- 2) 対話を振り返り、本時の授業を通して考えたことを書かせ、自己と対話させることによって、自分自身の姿を見つめ直し、自己理解を深めることができるようにする。

(6) 宮城県学力向上に向けた5つの提言との関連

本主題では、「学力向上に向けた5つの提言」を踏まえて、次のような学習活動を設定する。

提言①、②を踏まえ、対話の中で児童に考えを積極的に発表させ、考えを取り上げてほめたり認めたりする。

提言③を踏まえ、本時のねらいを明確にし、授業のまとめの段階で振り返りの時間を設定する。

提言④、⑤を踏まえ、事前に家庭学習で教材を読ませ、感想と本時で話し合いたい課題を考えさせる。また、授業のまとめでも自分の考えを書く活動を設定し、振り返らせることによって、自分自身の姿を見つめさせる。

3 本時の学習

(1) ねらい

広美の気持ちの変容について対話をさせることによって、最上級生としての役割を自覚し、学校に愛着をもち、さらによりよい学校をつくろうとする実践意欲と態度を育てる。

(2) 準備物

① 教師：掲示用挿絵 事前アンケート短冊 ツールキット コミュニティーボール

② 児童：教科書 筆記用具 「あすなろノート」 ネームカード

(3) 学習過程 (別紙)

(4) 評価

最上級生としての役割を自覚し、みんなで協力し合っそのよさを受け継ぎ、さらによりよい学校をつくっていくことの大切さを、自分の体験と重ねて考えていたか。

(5) 板書計画

<p>課題</p> <p>「(例) 広美は米屋のおじさんの話を聞いてどんなことを考えたのでしょうか。」</p> <p>挿絵③</p> <p>おじさんに招待状</p> <p>迷わず</p> <p>キク作りは学校のほこり</p> <p>おじさんの話</p> <p>挿絵②</p> <p>おじさんの作文</p> <p>二人二はち運動</p> <p>挿絵①</p> <p>さいばい委員になった</p> <p>せんぱいの心を受けついで</p>	<p>大鷹沢小学校の よき伝統とは</p>
--	---------------------------

(別紙)

3 (3) 学習過程

段階	学習活動 (◎中心発問○発問・児童の反応)	指導上の留意点 ◇評価(方法) ※研究の視点 【5つの提言】		
事前	<p>【事前学習】</p> <ul style="list-style-type: none">・大鷹沢小学校のよき伝統についてアンケートに書く。 <p>【家庭学習】</p> <ul style="list-style-type: none">・教材を読み、感想とみんなで考えたい課題を「あすなろノート」に記入する。 <p>【朝の活動】</p> <ul style="list-style-type: none">・各自が考えた課題の中から、本時で話し合う課題を全員で決める。・本時の課題に対する自分の考えを「あすなろノート」に書く。	<ul style="list-style-type: none">・「大鷹沢小学校のよき伝統とは何か」というアンケート調査を行うことによって、自分たちの学校に対する思いを振り返らせる。 ※①a・教材を事前に読ませ、授業で話し合いたい課題を考えさせることによって、児童が課題意識をもつことができるようにする。 【提言5】 ※①b・課題に対する考えを「あすなろノート」に書かせ、自分の考えをもって授業に臨むことができるようにする。 【提言4】		
本時 導入 5分	自己理解 他者理解	1 事前に実施したアンケートの結果を知る。	T 1	T 2
		・アンケートの結果を示し、学校のよさについて確かめ合わせる。 ※①a		
展開 30分	価値理解 他者理解	2 教材を基に、児童が選んだ課題について対話する。		
		<p>選んだ課題(例)</p> <p>広美は米屋のおじさんの話を聞いてどんなことを考えたのでしょうか。</p> <p>【予想される課題】</p> <ul style="list-style-type: none">・なぜ広美の気持ちが変わったのだろうか。・どうしておじさんに招待状を書いたのか。	・事前に児童が選んだ課題で対話を始め、どうしてその課題を考えたのか理由も発表させることによって、対話への主体的な構えを促す。 ※①b	

自己 理解 ↑ 行 き 戻 り す る ↓ 他者 理解	<p>【予想される反応C（伝統への誇り）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 伝統の花を見てほしい。 ・ 先輩として来てほしい。 	<p>【反応Cへの問い返し】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「おじさんってどんな存在なの？」 ・ 「米屋のおじさんは近所のおじさんとどう違うのか？」 <p>◇米屋のおじさんに招待状を書いた広美の気持ちを考えていたか。</p> <p style="text-align: right;">（話合いの様子，発言）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「他の人ではだめなのかな？」
	<p>○大鷹沢小学校のよき伝統を守るために何ができるでしょう。</p>		
	<p>【予想される反応A（伝える）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 下級生に踊りを教えていく。 ・ 5年生に伝えていく。 <p>【予想される反応B（協力）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ みんなで力を合わせてがんばっていく。 <p>【予想される反応C（続ける）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ずっと踊りを続けていく。 	<p>・ 導入で提示したアンケートを振り返らせ，大鷹沢小学校の伝統について再確認するとともに，今後自分たちで学校をよりよくしていくための心構えをもつことができるようにする。</p> <p>【予想される反応Aへの問い返し】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「踊り方を教えるだけでいいのかな？」 ・ 「どうやって何を伝えるの？」 ・ 「伝えたいのは踊りだけなの？」 <p>【予想される反応Bへの問い返し】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「みんなで力を合わせてどうするの？」 ・ 「例えばどんなこと？」 <p>【予想される反応Cへの問い返し】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「卒業するから，いつか続けられなくなるんじゃない？」 ・ 「続けられなくなったらどうする？」 ・ 本校の卒業生数名に，母校についての具体的な思い出や，卒業後そして今の母校への思いをメッセ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「ずっと引き継がれてきたのはなぜなのかな？」

			<p>ージとして手紙に書いてもらい教師が紹介する。そして、伝統を守ることについての考えを深めさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分だったら何ができるかを考えさせることによって、伝統を受け継いでいこうという意欲を高めさせたい。 <p style="text-align: right;">【提言1, 2】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自身の経験に基づいた「踊りのような伝統は何もなかったけど、楽しい小学校時代だった。それではだめなのかな？」という問い返しを行うことで、伝統の必要性についての考えを深めさせる。
<p>まとめ 10分</p>	<p>自己理解 他者理解</p>	<p>3 心に残った友達の意見や、考えが変わったことと感想を「あすなるノート」にまとめ、共有する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・対話を振り返り、心に残った友達の意見や自分の考えが変わったきっかけとなった意見、今後に生かしたいと思ったことなどを書かせることによって、多面的・多角的に考えさせる。 ※② ・本時の授業を通した感想を書かせることによって自己との対話をさせ、自分自身を見つめ直し、自己理解を深められるようにする。 ・数名の児童に意図的に指名し、書いた内容を発表させることによって、考えの共有と他者理解を深められるようにする。 <p>◇自分の学校をよりよいものにしていくことの大切さを、自分のこれまでの体験と重ね合わせて考えていたか。(発言, ノート)</p> <p style="text-align: right;">【提言3, 4】 ※②</p>	

教材分析表

教材名

「せんぱいの心を受けついで」

C- (16) よりよい学校生活, 集団生活の充実

ねらい

広美の気持ちの変容について対話をさせることによって, 最上級生としての役割を自覚し, 学校に愛着をもち, さらによりよい学校をつくらうとする実践意欲と態度を育てる。

